

## 平成 27 年度 第1回(5/27 開催) 総合教育会議 各委員発言要旨

福田知事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方創生には教育、人づくりが非常に大切</li> <li>・いじめは教育の現場から無くしていかなければならない</li> <li>・栃木県はふるさとに対する愛着意識が少ないが、居注意識は高まっている</li> <li>・栃木県の地域資源をまとめた「とちぎの百様」を教育に活用してもらいたい</li> <li>・「じぶん未来学」は、地域への愛着とか定住意識の醸成を図るきっかけに</li> <li>・国際的視野を持ち、他文化も尊重するグローバル人材の育成</li> </ul>
岡委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼い頃からの知人や地域の人たちとのつながりがあるから地元に戻ってくる</li> <li>・地元に戻るには、栃木の経済が元気であり、かつ地元愛を根付かせること</li> <li>・地元愛を持ってもらうためには、高校生のうちから積極的にまちづくりに参画してもらうことが有効</li> <li>・地域づくりに、自ら考え、形にする体感が地域への深い愛着を育む</li> </ul>
伏木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動を繰り返すことで、地域への誇りや愛着を感じる</li> <li>・成長の段階に合わせて要所要所で地域の活動に参加、大人たちと一緒に行動するということが、子どもたちの地域への愛情を育てるのに大切</li> <li>・親の役割の大切さ(三度三度の食事、母の膝の上で読書等)</li> <li>・家族との会話や読書以上にスマホをやる時間が多いのは問題</li> </ul>
陣内委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栃木に愛着を持つには、そこに住む大人たちがハッピーで生きているかどうか</li> <li>・地域の中に「目標としている大人」がどれだけいるかがポイント</li> <li>・ルールは敷かない、自分の力で頑張れ、頑張るところは一生懸命応援する</li> <li>・子どもたちが力を発揮できる環境を、県でつくっていかないといけない</li> <li>・いいなと思える大人の中で体験をした子たちは、県外に出ても、もう一度に戻ってきたいと思う</li> </ul>
古澤教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京の私大生へ年間100億円近いお金が仕送り(=所得移転)</li> <li>・一人ひとりが栃木県で自己実現してもらうために、地域愛や定住意識の醸成に取り組む</li> <li>・指導対象ではなく一市民として、地域づくりに参画をする機会をつくること</li> <li>・人と人とのつながりができて、地域への愛着が生まれる</li> <li>・郷土を知ることによって愛着は初めて生まれる</li> </ul>
工藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県が次世代の人たちに何ができるのかをきちんと考えなければいけない</li> <li>・自分の未来を考えた時、特にキャリア教育が非常に大切</li> <li>・女性もしっかりどんな状況になっても自分の力と経済力を持つことが大切</li> <li>・実際に第一線で働いている方に授業を持ってもらい、実社会で経営、経済学がいかに役立つかを教えることが必要</li> <li>・大学進学の際の選択肢が将来の職業選択につながるので、ここがポイント</li> </ul>
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人づくりというのが非常に大きなキーワード</li> <li>・地元就職する際、県内にある企業の魅力度がどうかがとても重要</li> <li>・栃木県に定住するためには、子育てに優れたすぐれた県になること</li> <li>・色々な形で学校と企業、生徒との出会い、交流の場を工夫していく必要</li> <li>・人づくりの中でも、バランスのいい、たくましい人材を一人でも多く育てたい</li> </ul>